



株主のみなさまへ

2015年3月期 vol.24

2014年3月21日～2015年3月20日

YASKAWA

安川情報システム株式会社

福岡県北九州市八幡西区東王子町5番15号 〒806-0037
TEL.093-622-6111(代) FAX.093-622-6121

YASKAWA INFORMATION SYSTEMS Corporation
5-15, Higashioji, Yahatanishi-ku, Kitakyushu, Fukuoka 806-0037, JAPAN
PHONE. +81-93-622-6111 FAX. +81-93-622-6121

連結業績ハイライト

- 当連結会計年度における我が国の経済は、円安や原油安による大手製造業の業績改善に加え、後半は消費税の影響からの回復もあって、景気は緩やかな回復基調となりました。
- 情報サービス業界では、企業の投資意欲からIT投資は緩やかな増加傾向ではありますが、先行き不透明な景況感から投資にあたっての慎重な姿勢は依然として継続しています。その一方で、ビッグデータやIoT/M2M (Internet of Things/Machine to Machine) など、新たな技術の利活用への動きが活発化しております。
- このような環境において、当社グループは中期経営計画「Renaissance21 (ルネッサンス21)」の2年目として、中期経営計画の成長戦略達成に向けて、営業力と技術力の強化により事業の成長を確実なものとし、人材・組織の強化と採算性の向上で事業基盤を固め、経営計画の必達に努めてまいりました。
- 業績、今後の事業展開及び財務体質等を総合的に勘案し、当期における期末配当金は引き続き無配とさせていただきます。

(単位：百万円)

科 目	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
受注高	13,940	13,841	12,941
売上高	12,862	13,760	12,918
営業利益	87	124	226
経常利益	159	129	226
当期純損益	92	64	87
1株当たり当期純利益金額：円	5.14	3.56	4.85
純資産額	3,118	3,185	2,041
総資産額	8,907	9,385	9,068
1株当たり純資産額：円	172.49	176.14	112.63
自己資本比率：%	34.9	33.8	22.4
自己資本当期純利益率(ROE)：%	3.0	2.0	3.4
年間配当金(うち中間配当金)	—円(—円)	—円(—円)	—円(—円)

(注) 2015年3月期から退職給付に関する会計基準等が適用され、この適用の影響により純資産が前年度に比べ大幅に減少しております。

目次

ごあいさつ	1	連結決算報告	8
トップインタビュー	2	個別決算報告	11
過去5カ年の業績推移	4	会社プロフィール	12
事業別の概況	6	株主情報	13
トピックス	7		

ごあいさつ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、当連結会計年度における我が国の経済は、景気は緩やかな回復基調となりましたが、円安・コスト高による中堅・中小製造業の業績悪化や新興国の景気減衰など、先行き不透明な状況が続きました。当社グループの属する情報サービス業界では、IT投資は緩やかな増加傾向ではありますが、先行き不透明な景況感から投資にあたっての慎重な姿勢は依然として継続しています。その一方で、ビッグデータやIoT/M2M (Internet of Things/Machine to Machine) など、新たな技術の利活用への動きが活発化しております。

このような環境において当社グループは、今年度は中期経営計画「Renaissance21 (ルネッサンス21)」の2年目として、中期経営計画の成長戦略達成に向けて、営業力と技術力の強化により事業の成長を確実なものとし、人材・組織の強化と採算性の向上で事業基盤を固め、経営計画の必達に努めてまいりました。

具体的には、IoT/M2M、環境エネルギー、ヘルスケアなど重点分野への集中営業による顧客や案件の開拓、既存顧客への提案営業による深耕開拓を行うとともに、昨年7月に三井物産グループとの資本業務提携を結ぶなど、営業・販売チャネルの拡大を進めております。

また、重点分野を中心として顧客価値の向上を図るため、ソリューションや先端技術の開発、技術者育成に取り組み、技術力の強化にも注力してまいりました。更に、事業の成長・発展の基盤となる人材育成や組織風土改革等の環境整備に取り組みとともに、源流管理やプロセス管理等のプロジェクト遂行力や品質管理の強化による事業採算性の向上を確実なものとしつつあります。



代表取締役社長 諸星 俊男

前年度に比べ収益は改善しましたが、いまだ復配をするまでの収益を計上できず、株主のみなさまには誠に申し訳ありませんが、引き続き無配とさせていただきます。

今後の見通しにつきましては、景気は緩やかな回復を続けるものと思われ、情報サービス業界ではビッグデータやIoT/M2M等の新たな市場の拡大が加速するとともに、マイナンバー制度対応、情報セキュリティやガバナンスの強化等、社会における新たな課題に対するITニーズも増えてくるものと思われまます。

このような環境の中で当社グループは、中期経営計画「Renaissance21 (ルネッサンス21)」の最終年度として、明確なビジネス戦略と実行力で重点事業を成長軌道に乗せ、人材・組織の強化と事業採算性の追求により、将来への成長基盤固めに努めてまいります。



この度、代表取締役社長に就任した諸星俊男に、就任に当たっての思いや更なる成長に向けたこれからの展望などについてインタビューしました。

代表取締役社長
諸星 俊男

私はこれまで海外でのマーケティングや営業など、グローバル分野で仕事をしてきました。また、アメリカでは10年以上働いており、様々な国籍の方とコミュニケーションを図り、お付き合いしてきました。私がこれまでグローバル分野で培ってきた経験と人脈を活かし、当社のグローバル化を推し進めていきたいと考えています。

Q3 | ビジネスで特に大切にしていることは何でしょうか。

お客様の大切なITシステムを担わせていただくわけですから、私自らが営業を行うトップセールスの姿勢が大事です。

また、システムを開発し、お引き渡しするまでで終わりではなく、信頼性の高いソリューションがお客様のもとで十分なパフォーマンスを発揮し続けるように社長自らが関与し続けます。

Q1 | 社長としての目標や抱負を教えてください。

まずは、清水前社長（現会長）がやってこられた事業構造変革（受託開発からソリューション提供型への変換）を踏襲し、更に実らせていきたいと考えています。

安川情報システムを北九州の会社でなく、日本の会社でもなく、世界レベルの会社になりたいと思っています。そのためにも安川電機、三井物産との協業を拡大していくことが肝要です。

Q2 | 安川情報システムがグローバル化を進めていくうえでの課題は何でしょうか。

親会社であった安川電機がグローバル企業であるのに、安川情報システムはまだグローバル企業ではありません。当社は、グローバル化へのスピード、時間的な対応が遅れていると考えています。また、英語力も不足していると思います。更に、ビジネスをグローバル展開するためには、世界的な競争力を持つソリューションを次々と生み出していくことが必要です。

Q4 | 安川情報システムの印象は。

従業員の能力は高く、技術の蓄積は高く評価しています。これからは、社員の能力や蓄積された技術をいかにうまく引き出していくかが課題です。もちろん、女性もどんどん活用したいと考えています。

また、当社はM2Mやヘルスケア等将来性のあるマーケットや技術力を持っており、新たなチャレンジができることにわくわくしています。

Q5 | 今後伸ばしていく事業分野を教えてください。

IoT、M2M市場の中で当社ができることを深掘りしていきたいと考えています。マーケットは巨大です。我々の強みとなるM2M/IoT技術を追求し、事業の拡大を図っていきます。

また、昨年資本業務提携を結んだ三井物産は、様々な地域や業態に強い商社です。三井物産のチャネルを活用して、M2M/IoTの領域を拡大していきたいと考えています。



Q6 | 最後に、株主のみなさまにメッセージをお願いします。

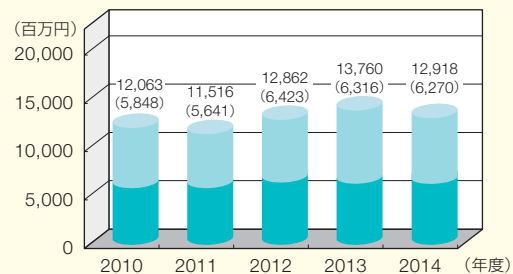
代表取締役社長に就任しました諸星俊男でございます。私は、富士通に入社して、マーケティング、海外営業に従事し、その後、外資系二社の社長を務めてまいりました。これまで私が培ってきた経験や人脈を活かし、当社で新たなことにチャレンジできることを嬉しく思っています。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

過去5年の業績推移

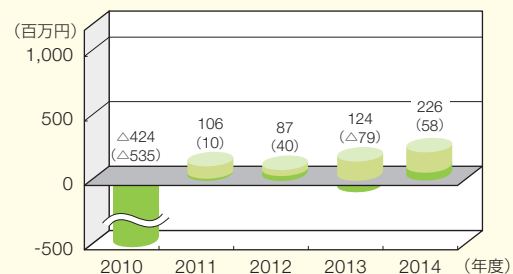
売上高

売上高
(うち第2四半期累計)



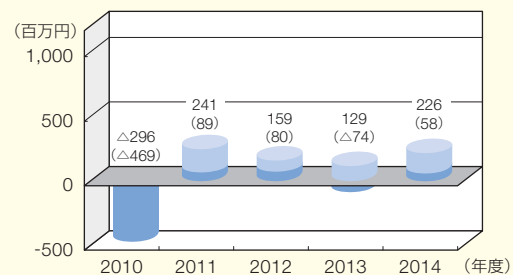
営業損益

営業損益
(うち第2四半期累計)



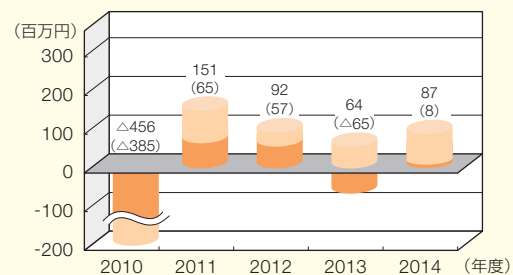
経常損益

経常損益
(うち第2四半期累計)



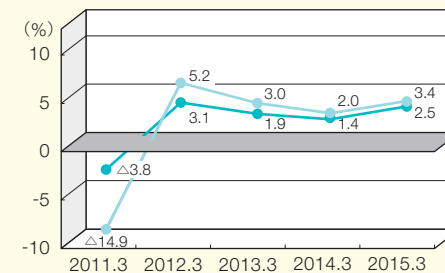
当期純損益

当期純損益
(うち第2四半期累計)



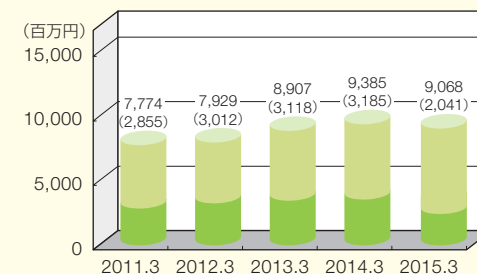
収益性

自己資本当期純利益率 (ROE)
総資産経常利益率



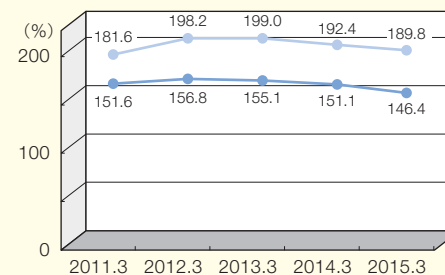
資産状況

総資産
(うち純資産)



安定性 (流動比率・当座比率)

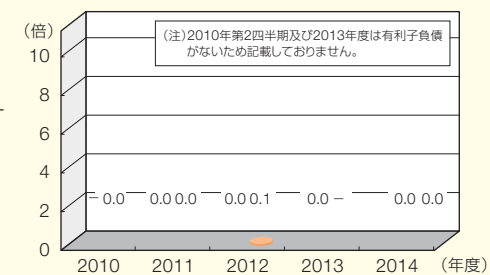
流動比率
当座比率



キャッシュ・フロー 対有利子負債比率 (倍)

有利子負債 / 営業活動によるキャッシュ・フロー

第2四半期 年度



事業別の概況

(単位：百万円)

事業	2014年3月期	2015年3月期
ビジネス・ソリューション事業	5,029	4,571
組込制御ソリューション事業	5,678	5,881
医療・公益ソリューション事業	3,052	2,466
連結売上高合計	13,760	12,918

ビジネス・ソリューション事業

当事業では、移動体通信事業者向けシステム開発は堅調に推移しましたが、安川電機グループのIT投資においてグローバルERPプロジェクトは一巡により減少しました。

その結果、受注高は44億95百万円(前連結会計年度比9.1%減)となり、売上高は45億71百万円(同9.1%増)となりました。

組込制御ソリューション事業

当事業では、産業機器向けの製品組込ソフト開発は減少しましたが、医療機器向けのソフト開発は好調で、M2M等の情報機器の需要も高く推移し、水処理や産業用電気機械向け制御システムの売上も増加しました。

その結果、受注高は58億1百万円(前連結会計年度比0.6%増)となり、売上高は58億81百万円(同3.6%増)となりました。

医療・公益ソリューション事業

当事業では、医療機関向けソリューションサービスは堅調に推移し、健康保険者向けの大規模システム構築は増加しましたが、インターネット・セキュリティ関連製品は減少しました。

その結果、受注高は26億44百万円(前連結会計年度比15.5%減)となり、売上高は24億66百万円(同19.2%減)となりました。

トピックス

低価格・小型化・高速化を同時に実現したモバイル通信アダプタ 「MMLink-Lite」を製品化

機器の遠隔監視や情報収集を可能にするモバイル通信アダプタMMLinkシリーズ。その新たなラインアップとして「MMLink-Lite」を製品化し、昨年夏に販売開始しました。ネットワークの高速化と同時に低価格化・小型化を実現。これにより導入費用が抑えられ、これまで物理的に組み込みが困難だった

機器への遠隔監視が可能になります。

M2Mは工作機器の稼働管理を始め、様々な業界・用途へ広がりを見せており、お客様の要求も多様化しています。従来のMMLinkシリーズとあわせて、お客様の様々な要求にトータルでお応えしていきます。

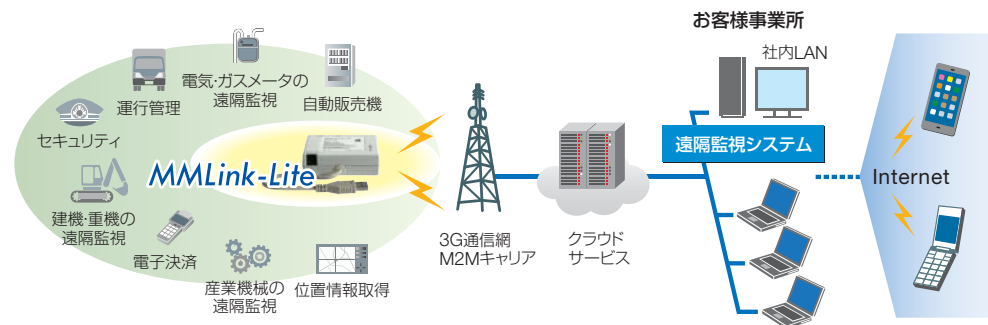
用途

- USBインタフェースを有する機器に接続し、国内/海外の遠隔監視を実現
- 固定回線の敷設や既存ネットワークへの接続が困難な場所での利用
- GPS位置測位機能により、車・人・モノの位置情報を管理

製品ラインアップ

- ◆ MMLink-Lite LTE
LTE回線対応の産業向けUSB通信アダプタ
- ◆ MMLink-Lite 3G
キャリアに依存しないSIMフリーな産業向けUSB通信アダプタ

活用イメージ図



(注)MMLink-Lite 3Gを使用した場合のイメージ図です。

連結決算報告

(連結貸借対照表・連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書)

■ 連結貸借対照表 (2015年3月20日現在)

(単位:百万円)

資産の部	金額
流動資産	6,747
現金及び預金	1,559
受取手形及び売掛金	3,644
商品及び製品	76
仕掛品	1,026
原材料及び貯蔵品	11
繰延税金資産	341
その他	92
貸倒引当金	△3
固定資産	2,320
有形固定資産	673
建物及び構築物	222
機械装置及び運搬具	2
土地	393
その他	55
無形固定資産	186
リース資産	0
ソフトウェア	85
その他	101
投資その他の資産	1,460
投資有価証券	111
繰延税金資産	1,150
その他	198
資産合計	9,068

(単位:百万円)

負債の部	金額
流動負債	3,554
支払手形及び買掛金	989
リース債務	0
未払金	957
未払費用	1,117
未払法人税等	69
役員賞与引当金	3
その他	419
固定負債	3,472
退職給付に係る負債	3,089
役員退職慰労引当金	35
長期未払金	198
繰延税金負債	2
その他	146
負債合計	7,027
純資産の部	金額
株主資本	3,224
資本金	664
資本剰余金	318
利益剰余金	2,242
自己株式	△0
その他の包括利益累計額	△1,197
その他有価証券評価差額金	54
退職給付に係る調整累計額	△1,251
少数株主持分	14
純資産合計	2,041
負債純資産合計	9,068

■ 連結損益計算書 (自 2014年3月21日 至 2015年3月20日)

(単位:百万円)

	金額
売上高	12,918
売上原価	10,204
売上総利益	2,714
販売費及び一般管理費	2,488
営業利益	226
営業外収益	3
受取利息	0
受取配当金	1
法人税等還付加算金	0
その他	1
営業外費用	3
支払利息	0
売上債権売却損	3
その他	0

(単位:百万円)

	金額
経常利益	226
特別利益	16
固定資産売却益	16
特別損失	0
固定資産除却損	0
関係会社整理損	0
ゴルフ会員権評価損	0
税金等調整前当期純利益	242
法人税、住民税及び事業税	92
法人税等調整額	62
法人税等合計	155
少数株主損益調整前当期純利益	87
少数株主利益	0
当期純利益	87

■ 連結株主資本等変動計算書 (自 2014年3月21日 至 2015年3月20日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2014年3月21日残高	664	318	2,165	△0	3,137
連結会計年度中の変動額					
当期純利益			87		87
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	87	—	87
2015年3月20日残高	664	318	2,242	△0	3,224

(単位:百万円)

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
2014年3月21日残高	32	—	32	14	3,185
連結会計年度中の変動額					
当期純利益					87
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	21	△1,251	△1,230	△0	△1,231
連結会計年度中の変動額合計	21	△1,251	△1,230	△0	△1,143
2015年3月20日残高	54	△1,251	△1,197	14	2,041

財政状態の分析

① 資産の状況

当連結会計年度末の流動資産は67億47百万円(前連結会計年度末比3億52百万円増)となりました。これは、主として仕掛品が2億81百万円増加したこと、現金及び預金が2億20百万円増加したこと、繰延税金資産が91百万円減少したこと等によるものです。

固定資産は23億20百万円(同6億69百万円減)となりました。これは、主として前払年金費用が15億1百万円減少したこと、繰延税金資産が7億3百万円増加したこと等により、投資その他の資産が7億26百万円減少したこと等によるものです。

この結果、資産合計は90億68百万円(同3億16百万円減)となりました。

② 負債の状況

当連結会計年度末の流動負債は35億54百万円(前連結会計年度末比2億30百万円増)となりました。これは、主としてその他が1億33百万円増加したこと、未払金が76百万円増加したこと、未払費用が22百万円減少したこと等によるものです。

固定負債は34億72百万円(同5億96百万円増)となりました。これは、主として退職給付に係る負債が30億89百万円増加したこと、退職給付引当金が23億60百万円減少したこと等によるものです。

この結果、負債合計は70億27百万円(同8億26百万円増)となりました。

③ 純資産の状況

当連結会計年度末の純資産合計は20億41百万円(前連結会計年度末比11億43百万円減)となりました。これは、主として退職給付に係る調整累計額が12億51百万円減少したこと、利益剰余金が87百万円増加したこと等によるものです。

連結決算報告

(連結キャッシュ・フロー計算書)

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(自 2014年3月21日 至 2015年3月20日)

(単位: 百万円)

	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	242
減価償却費	80
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1
前払年金費用の増減額(△は増加)	1,501
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	2
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△2,360
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,154
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7
受取利息及び受取配当金	△1
支払利息	0
固定資産売却損	0
固定資産売却益(△は益)	△16
関係会社整理損	0
ゴルフ会員権評価損	0
売上債権の増減額(△は増加)	38
たな卸資産の増減額(△は増加)	△277
仕入債務の増減額(△は減少)	26
未払金の増減額(△は減少)	67
未払費用の増減額(△は減少)	△22
未払消費税等の増減額(△は減少)	160
長期未払金の増減額(△は減少)	△166
その他	△14
小計	422

(単位: 百万円)

	金額
利息及び配当金の受取額	1
利息の支払額	△0
法人税等の支払額	△79
法人税等の還付額	36
営業活動によるキャッシュ・フロー	380
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△51
有形固定資産の売却による収入	41
無形固定資産の取得による支出	△119
無形固定資産の売却による収入	18
投資有価証券の取得による支出	△0
その他	△45
投資活動によるキャッシュ・フロー	△157
財務活動によるキャッシュ・フロー	
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1
少数株主への配当金の支払額	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	220
現金及び現金同等物の期首残高	1,339
現金及び現金同等物の期末残高	1,559

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より2億20百万円増加し、15億59百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況につきましては、次のとおりです。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、退職給付引当金の減少23億60百万円、たな卸資産の増加2億77百万円があったものの、前払年金費用の減少15億1百万円、退職給付に係る負債の増加11億54百万円、税金等調整前当期純利益2億42百万円等があったこと等により、3億80百万円(前年同期比4億89百万円増)となりました。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却41百万円があったものの、無形固定資産の取得1億19百万円、有形固定資産の取得51百万円があったこと等により、△1億57百万円(前年同期比64百万円減)となりました。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、ファイナンス・リース債務の返済1百万円、少数株主への配当金の支払1百万円により、△2百万円(前年同期比0百万円減)となりました。

個別決算報告

(貸借対照表・損益計算書)

■ 貸借対照表(2015年3月20日現在)

(単位: 百万円)

資産の部	金額
流動資産	5,671
現金及び預金	1,270
受取手形	259
売掛金	2,702
商品	76
仕掛品	946
貯蔵品	11
前渡金	34
前払費用	33
繰延税金資産	298
その他	38
固定資産	3,012
有形固定資産	652
建物	206
構築物	2
機械及び装置	2
工具、器具及び備品	48
土地	393
無形固定資産	183
商標権	0
ソフトウェア	82
ソフトウェア仮勘定	90
リース資産	0
その他	10
投資その他の資産	2,176
投資有価証券	93
関係会社株式	115
長期前払費用	1
前払年金費用	1,341
繰延税金資産	459
敷金	158
その他	6
資産合計	8,684

(単位: 百万円)

負債の部	金額
流動負債	2,873
買掛金	552
リース債務	0
未払金	1,014
未払費用	917
未払法人税等	52
未払消費税等	164
前受金	131
預り金	40
固定負債	2,826
長期未払金	198
退職給付引当金	2,491
長期前受金	136
負債合計	5,699
純資産の部	金額
株主資本	2,934
資本金	664
資本剰余金	318
資本準備金	318
利益剰余金	1,952
利益準備金	70
その他利益剰余金	1,881
別途積立金	1,925
繰越利益剰余金	△43
自己株式	△0
評価・換算差額等	50
その他有価証券評価差額金	50
純資産合計	2,985
負債純資産合計	8,684

■ 損益計算書(自 2014年3月21日 至 2015年3月20日)

(単位: 百万円)

	金額
売上高	10,873
売上原価	8,555
売上総利益	2,317
販売費及び一般管理費	2,154
営業利益	162
営業外収益	36
受取利息	0
受取配当金	35
その他	0
営業外費用	3
支払利息	0
売上債権売却損	2
その他	0

(単位: 百万円)

	金額
経常利益	195
特別利益	16
固定資産売却益	16
特別損失	0
固定資産売却損	0
関係会社整理損	0
ゴルフ会員権評価損	0
税引前当期純利益	212
法人税、住民税及び事業税	56
法人税等調整額	49
当期純利益	106

会社プロフィール

会社概要 (2015年3月20日現在)

商号 : 安川情報システム株式会社
 本社所在地 : 福岡県北九州市八幡西区
 東王子町5番15号 〒806-0037
 設立年月日 : 1978年2月1日
 資本金 : 664百万円
 従業員数 : 486名
 主な事業 : ビジネス・ソリューション事業
 組込制御ソリューション事業
 医療・公益ソリューション事業
 連結子会社 : 株式会社 安川情報九州
 安川情報エンベデッド株式会社

役員 (2015年6月12日現在)

取締役会長	清水 喜文
代表取締役社長	諸星 俊男
取締役 執行役員	石田 聡子
取締役 執行役員	久野 弘道
社外取締役	小笠原 浩
社外取締役	扇 博幸
社外取締役	中田 直樹
社外監査役(常勤)	下園 直登
社外監査役	平山 雅之
社外監査役	大串 秀文
常務執行役員	川畑 洋志
常務執行役員	城戸 重信
執行役員	三輪 雅志
執行役員	玉井 裕治
執行役員	清水 伸悟

(注)社外監査役(常勤)下園直登は、2015年6月19日就任予定です。

当社のホームページ



当社のIRページ

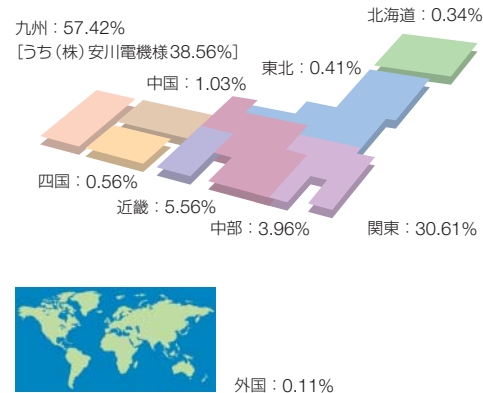
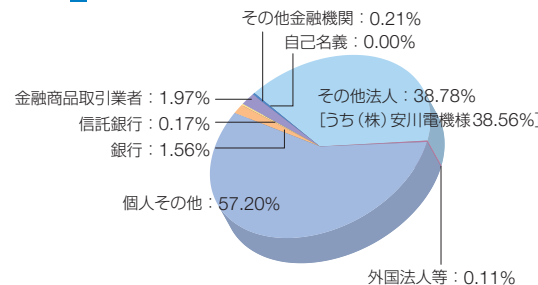


株主情報

株式の状況 (2015年3月20日現在)

株式の総数 : 64,000,000株
 発行済株式の総数 : 18,000,000株
 株主数 : 3,562名

株式数の分布状況 (2015年3月20日現在)



株主メモ

事業年度	3月21日~翌年3月20日
期末配当金受領株主 確定日	3月20日
中間配当金受領株主 確定日	9月20日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 0120-232-711 (通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.yasknet.co.jp (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

<お知らせ>

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。